取手の元気な女性を紹介！

となりのMatch子（マチコ）さん

Vol.9 日本畜産振興株式会社 代表取締役 安藤 貴子さん

Profile 体育大学を卒業後、中学校で保健体育の指導に従事。その後、家業である日本畜産振興(株)に入社、2004年に民事再生手続きを行う。06年に社長就任。しばらくしてブランド豚「バナナポーク」が誕生し、取手の名物に。外国人技能実習生の受け入れ・育成も行っており、09年に日本語学校「つくばスマイル」を設立。

家族の写真をお守りに

ブルーのミニ巾着から出てきたのは、亡くなったお父さま、お母さま、弟さんの写真。「ペンダントトップに加工して、お守り代わりにいつも持ち歩いています」

バッグの中身を見せてください！

海外出張など、移動が多いので、本は必ず一冊は持ち歩いているそう。「新書から恋愛小説、雑誌までいろいろです」（安藤さん）。問い合わせがあったらすぐに対応できるよう、受け入れた外国人の名簿を常に携帯。

おいしさが違う！取手のブランド豚

乾燥したバナナを飼料に加えて育てた「バナナポーク」は、臭みが少なく、やわらかな食感。おいしさが違う！と評判の、取手が誇るブランド肉です。考案したのは、社長である安藤貴子さんの亡き弟。「豚の飼料の価格高騰に頭を悩ませていた生産者の助けになればと弟がフィリピンで、間引きされたバナナを豚が食べているのを見て、ひらめいたんです」。その味に感動し、たくさんの人に知ってほしいと、バナナポークと名付け、ロゴを作成。社員のユニホームも作りました。「バナナポークが、と畜業のイメージを少しずつでも変えるきっかけになれば」と熱を込めます。

苦難の時代を乗り越え人材育成にも貢献

実は安藤さん、ご両親が始めた日本畜産振興を継ぐつもりはなかったそう。スポーツ少女で学生時代はバスケットボールに励み、大学卒業後は体育教師に。会社の経理をしてほしいと母親に請われるまでの間、子どもたちの指導に当たりました。入社して驚いたのは経営状態の悪さ。「苦渋の決断で民事再生手続きを行いました。当時社長だった母とはぶつかりましたが、従業員のためにも会社を畳むという選択肢はなかったんです」。子育てをしながらの苦労もあったそう。安藤さんのはつらつとした笑顔の裏には、大変な時代を乗り越えた経験がありました。

安藤さんがもう一つのライフワークとして取り組んでいるのが、外国人技能実習生の受け入れです。2009年には日本語学校「つくばスマイル」を立ち上げ、優秀な人材の育成に尽力。他企業へ巣立ったあとも何かあれば、安藤さんに昼夜を問わず連絡が来るそう。それでも、将来の労働者不足を解消するために、絶対に必要なことなのだと話します。「対ヒトですから、それはいろいろあります。でも、一人一人を大切に、同じ目線で寄り添うことで、実を結んでいくと信じています」

NCS 日本畜産振興株式会社

住所／取手市長兵衛新田 238-8
問い合わせ／ 0297-73-2901（代）